



豪州準備銀行の利上げ決定と豪ドル相場への示唆

豪州準備銀行(RBA)は5会合ぶりに利上げ決定

豪州準備銀行(RBA)は11月7日の理事会において、5会合ぶりとなる利上げを決定しました(政策金利を4.35%へ0.25%ポイント引き上げ、図1)。

足元までのインフレ指標の上振れを受けて、市場ではRBAの利上げ観測が高まっていたことから、今回の利上げは概ね市場予想通りの結果となりました。

インフレ鈍化を確実にするために利上げを決定

RBAはインフレ鈍化をより確実なものにするため、今回の利上げが正当化されるとの判断を示しました。

ミシェル・ブロックRBA総裁の声明文では、サービス価格を中心にした根強いインフレ圧力への言及がなされ、「高水準のインフレが長期化するリスクが高まった」との見方が示されました(図2)。豪州の7-9月の消費者物価指数は前年比+5.4%へと鈍化したものの、サービス価格の上昇が持続的なインフレ圧力に繋がりがつあります(図3)。

今後の金融政策については中立的な方針を示す

もっとも、先行きの金融政策についてRBAの声明文では、従来までのタカ派的な姿勢が弱められ、「今後の利上げはデータ次第」と中立的な様子見姿勢が示されました。

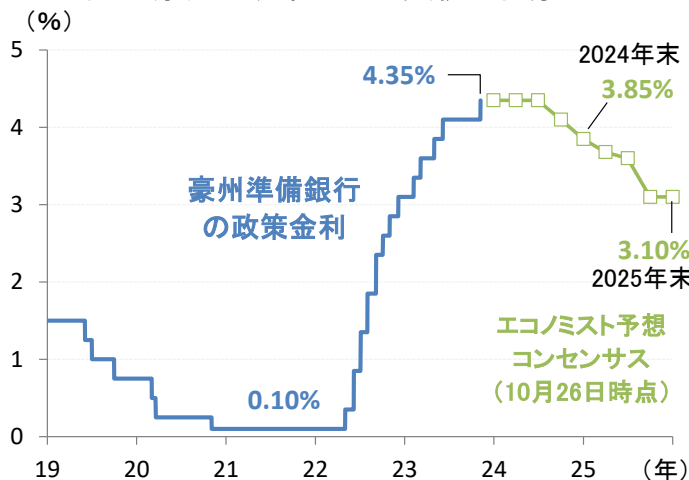
最新の市場予想では、RBAの政策金利は2024年6月末まで4.35%で据え置かれるとの見方が大勢です。その後は2024年7-9月以降、段階的な利下げが見込まれているものの、2024年末の政策金利は3.85%と高水準の金利が続く可能性が高いとみられています。

豪ドル相場の安定は豪州への証券投資の好機に

豪州の政策金利の高止まりは、金利差の面から豪ドル相場を支える要因になると考えられます(図4)。

市場では、今後の米ドル安進行の裏側で豪ドルの上昇を見込む見方が大勢であり、豪ドルの対円相場も安定的な推移が予想されています(図5)。豪ドルには通貨分散先としての見直しの余地が残されているほか、対円での豪ドル相場の安定が続く市場環境は豪州株や豪州債への投資を進める上での好機となる可能性があります。

図1: 豪州の政策金利の実績と市場予想



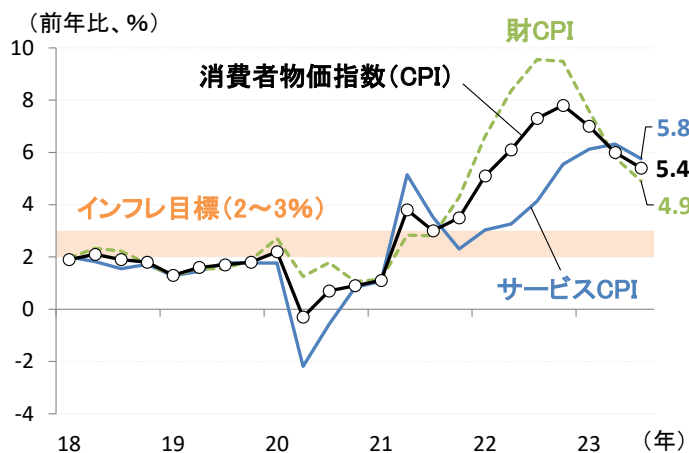
(出所)ブルームバーグ (期間)2019年1月1日~2023年11月7日

図2: 豪州準備銀行(RBA)理事会の声明文の要旨

- インフレ率はピークを超えたものの、依然として高水準であり、2-3カ月前の予想よりも持続的なものになっている。
- 最新統計では、財のインフレは一段と緩和している一方、多くのサービス価格は引き続き高騰が続いている。
- 足元までの情報は、高水準のインフレが長期化するリスクが高まったことを示唆している。
- さらなる金融引き締めが必要かどうかは、今後のデータとリスク評価の進展次第である。

(出所)豪州準備銀行 (注)2023年11月7日開催分。

図3: 豪州のインフレ率の推移

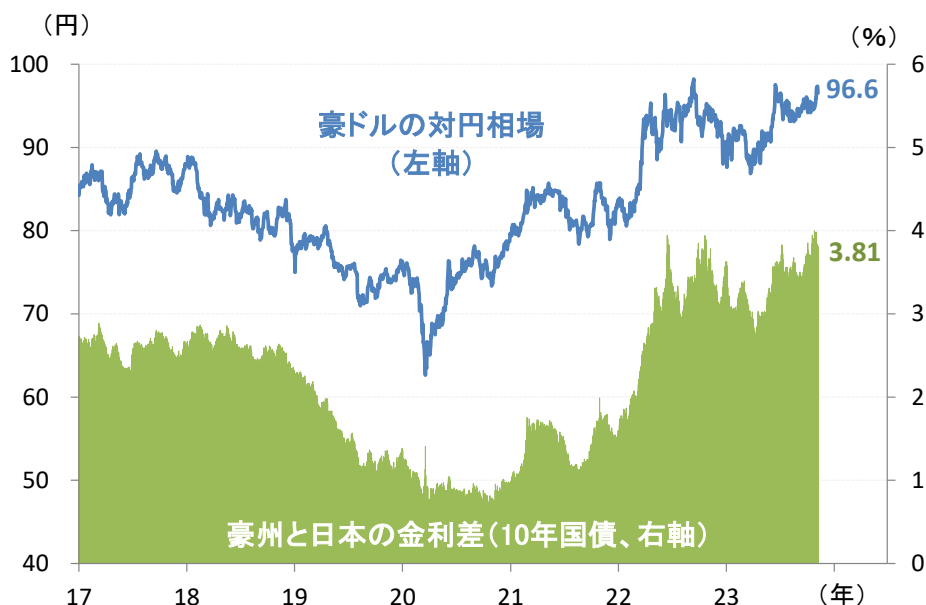


(出所)豪州政府統計局 (期間)2018年1-3月~2023年7-9月

●当資料は、説明資料としてフランクリン・テンプレートン・ジャパン株式会社(以下「当社」)が作成した資料です。●当資料は、当社が各種データに基づいて作成したもので、その情報の確実性、完結性を保証するものではありません。●当資料に記載された過去の成績は、将来の成績を予測あるいは保証するものではありません。また記載されている見解、目標等は、将来の成果を保証するものではなく、また予告なく変更されることがあります。●この書面及びここに記載された情報・商品に関する権利は当社に帰属します。したがって、当社の書面による同意なくして、その全部もしくは一部を複製し又その他の方法で配布することはご遠慮ください。●当資料は情報提供を目的としてのみ作成されたもので、証券の売買の勧誘を目的としたものではありません。●フランクリン・テンプレートン・ジャパン株式会社(金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第417号)はフランクリン・リソース・インク傘下の資産運用会社です。



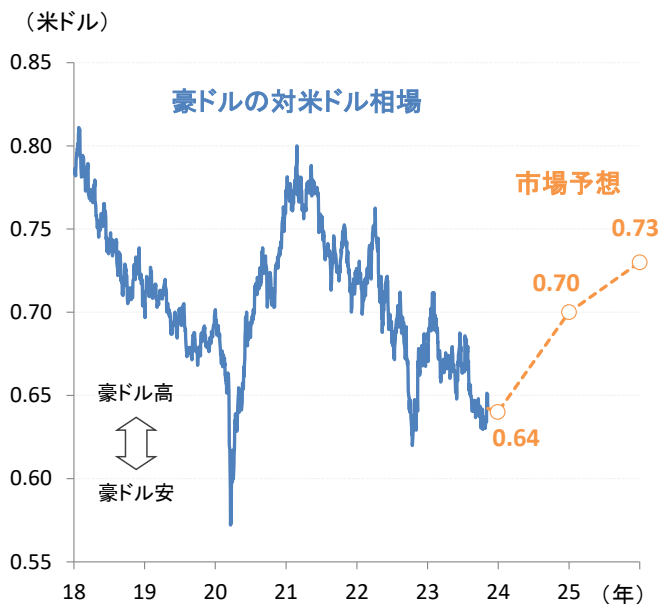
図4: 豪ドルの対円相場と豪・日金利差の推移



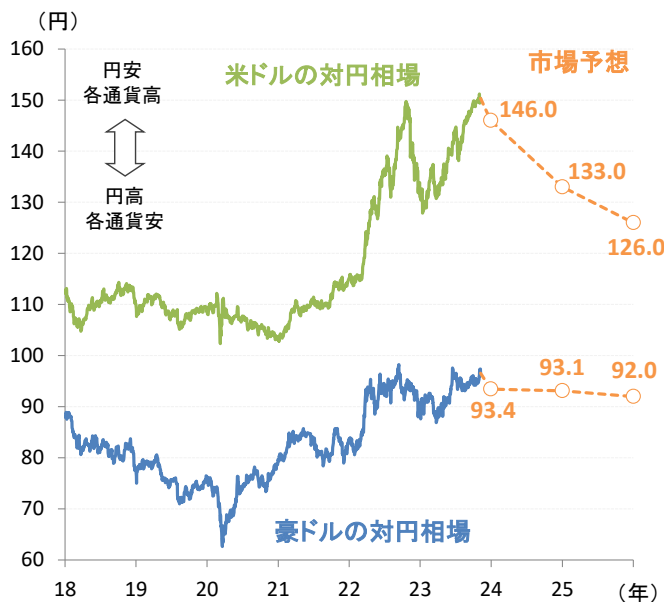
(出所)ブルームバーグ (期間)2017年1月2日～2023年11月7日

図5: 豪ドル相場の実績と市場予想

【豪ドルの対米ドル相場】



【豪ドルおよび米ドルの対円相場】



(出所)ブルームバーグ (期間)2018年1月1日～2023年11月7日

(注)市場予想は11月7日時点。